

伊豆潮風館及びリフト付き大型バスおおぞら号に係るワーキングチーム概要

令和 7 年 1 0 月 2 7 日

1 意見まとめ

- ・ おおぞら号については、廃止に伴う民間バス借上料の負担増が 25～40 万円と著しいため、借上料金の補助制度を検討すべき。
無料とはならなくとも団体利用で 1 人頭数千円の負担となる程度の費用を負担していただきたい。
- ・ 伊豆潮風館は、継続、廃止のいずれになるにせよ、負担増となる宿泊料金の措置に関する問題、障害当事者が出かけた時に出かけられる社会参加に関する問題、どこの宿泊施設でも泊まれるよう県から宿泊施設に啓発をする問題等について、R8 年度中には障害者団体等の意見を集約し、県に対し意見する必要がある。
- ・ 伊豆潮風館及びおおぞら号の代替措置については、各障害者団体の意見を聞く機会を設けるべきである。

2 その他意見

- ・ おおぞら号について、現行障害者支援計画に掲載されている事業であり、かつ計画期間中に事業廃止決定するのであれば、障害者権利条約にも規定されているとおり、障害者施策推進協議会、障害者団体に前もって情報提供、意見交換するべきであった。
このことは大変遺憾である。
 - ・ 他自治体のリフト付きバスの保有状況及び運行状況について、運行を既に終了している自治体の情報も含めて教えてほしい。
 - ・ 旅行は障害当事者及びその家族にとって単なる娯楽ではなく QOL に関わる重要なものであることから、本事業継続が困難な場合、以下①②のような代替措置を検討することが重要であると考えます。また、③の事例は参考になるのではないかと。
- ① 伊豆潮風館以外のバリアフリー対応宿泊施設を開拓、連携する。
 - ② 伊豆潮風館のメニューを多用化させ日帰りレクリエーション（くだもの狩り、日帰り温泉入浴、春や秋に海べでのんびり、春や秋に川でバーベキュー

一、花火大会鑑賞、文化施設見学、地元グルメ堪能、クラフト、年末のしめ縄・しめ飾りづくり、勉強を兼ねて福祉施設や事業所の見学の時間も設ける等）等を導入する。

オンラインによるバーチャル観光体験等を導入すると、障害程度、体調、天気、気温の影響を受けずに実施できる。

③ 以下の事例がおおぞら号に係る代替措置の参考となるのではないかと。

○ 都内自治体事業で、市内タクシー協会と市が協働し、障害当事者及びその家族を対象にタクシー10台程度を貸し切って旅行に行く事業がある。

○ 障害当事者の外出支援のため、地域住民等がボランティアにより福祉車両を運転しドアツードアの移送を行う事業を行う自治体がある。

※ これらの事業運営のためには、ボランティア、ドライバー等に対し、障害者理解を促す研修も必要。

・ 伊豆潮風館及びおおぞら号について、障害当事者が利用できる形での継続ができないか。

・ 伊豆潮風館について、利用の少ないサービスやエリアを縮小して経費削減を図ってはどうか。

・ 伊豆潮風館及びおおぞら号は利用している事業所が多く、継続した方がよい。

特に精神障害者は、障害を理由に大型バス利用を断られることが多いため。

・ 利用者側、行政側として、それぞれ以下の観点に留意が必要である。

■ 利用者側視点

○ 事業継続、廃止の検討に関しては、伊豆潮風館及びおおぞら号事業の利用状況（障害者福祉への貢献度、成果）の十分な把握が必要である。

○ 廃止に際しては、利用者の理解及び納得を得る必要がある。

○ 利用者の納得感のため廃止する場合は、廃止理由の公開も行うべきである。

○ 障害当事者及びその家族が負担している費用状況を把握する必要もある。

■ 行政側視点

○ 既得権益があれば、それに対する対処

○ 伊豆潮風館老朽化に伴う継続、廃止等の損益の判断

○ 利用者からの理解取得

○ 予算に限りがある中、事業継続の優先順位の付け方

・ 公の施設有識者会議において、社会のバリアフリー化も進んでいるため、伊豆潮風館の廃止も含めた検討を進言されているが、民間のバリアフリー化は

まだまだ進んでいない。

宿泊料金を補助するクーポン事業があっても、バリアフリー宿泊施設が少ない。

- ・ 特に知的障害の子、その家族らにとって、おおぞら号及び伊豆潮風館は気兼ねなく旅行できるツールとして重要である。
- ・ おおぞら号を廃車せず、利用者がおおぞら号ドライバーの日当を負担する等して、何とか存続できないか。
- ・ 武蔵野銀行行員の皆様が募金をして製作されたおおぞら号車体であるため、廃車はもったいないと感じる。
障害者交流センターの送迎バス等での再利用検討をお願いできれば有難い。
- ・ おおぞら号車体をバス会社に買い取ってもらい、障害者を優先的に利用できるよう配慮をしてほしい。
- ・ 視覚障害者はガイドヘルパーが必要であるため、おおぞら号及び伊豆潮風館が廃止されると費用負担が倍増する。
また、盲導犬ユーザーは例え宿泊料金補助がされたとしても、盲導犬を受け入れない宿泊施設が多くメリットが少ない。
- ・ 伊豆潮風館がそうであったように、障害者交流センターも障害当事者に何の話もなく廃止検討されては困る。
今後は前もって障害者団体等に話をしていただきたい。
- ・ 伊豆潮風館を継続して経営してくれる会社への売却等検討できないか。
その際、障害者を優遇するようにしていただきたい。